

涙腺崩壊の平家物語、3年ぶり6度目の聖地・壇ノ浦での再演決定

祇園精舎の鐘の声、
諸行無常の響きあり。

平家物語
抄録

The Palace
Beneath the Waves

— A Tragedy at Dan-no-ura —

2026/4/18 Sat

波の下の都

At Akama Shrine / Ryugu-den Hall

於:赤間神宮 龍宮殿

4-1 Amidaijicho, Shimonoseki, Yamaguchi, Japan

MATINEE

昼回 12:30 ~

SOIRÉE

夕回 15:30 ~

開場は各回30分前 公演時間は約90分予定

Doors open 30 minutes before each performance.

Running time: approximately 90 minutes.
(including bilingual introduction)

Performed in Japanese without English subtitles,
with a bilingual introduction and program provided.

その日壇ノ浦で、平徳子が見た光景は

The sea holds the mother's tears

詳細・ご予約



Tickets & Details

前売/Advance ¥3,500 当日/Same-day ¥4,000

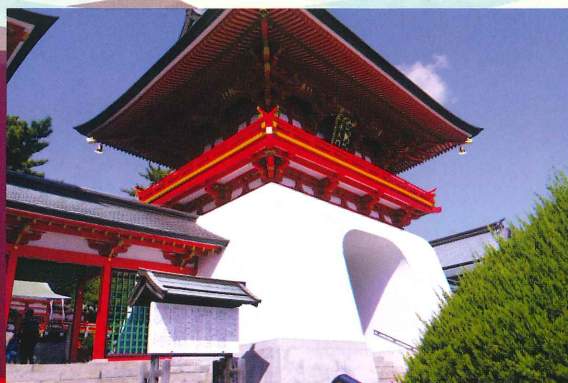
Even without subtitles, the Battle of Dan-no-ura unfolds vividly through music, voice, and movement.

※未就学児は入場できません No preschool children admitted.

※前売り完売の場合は、当日券の発売はありません No same-day tickets if sold out.

オンライン(On-demand) ¥2,500 4/20-5/4

with English subtitles



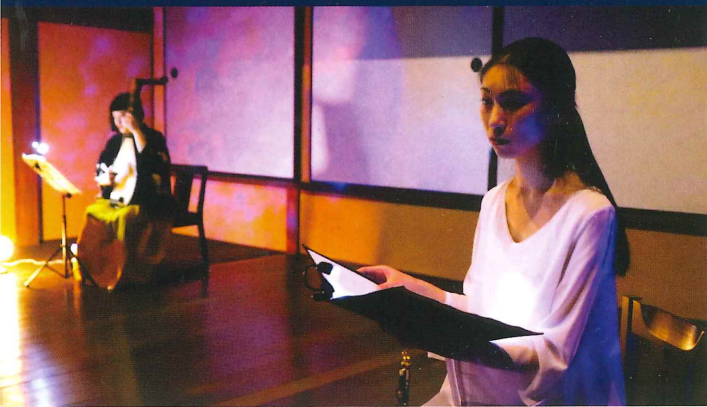
赤間神宮 〒750-0003 山口県下関市阿弥陀寺町4-1

主催: 関門時間旅行事務局 共催: 赤間神宮 企画・制作: トミタプロデュース
協力: 赤間神宮龍宮殿 関門汽船 平家茶屋 ZATTA ZISSE 理論社



KANMON TIME TRAVEL

Photo by Kiyoshi Kuzukami



「波の下の都」は平家物語を原作にした朗読作品です。軍記物の傑作と言われる平家物語を、悲劇の幼帝・安徳天皇の母・徳子の目線で書き直しました。権力争いに翻弄される弱者の視点で、永遠に繰り返される“人の業”をめぐる宿命に想いを馳せれば、それは古典ではなく普遍の物語になります。

Inspired by The Tale of the Heike, Japan's famous biwa storytelling tradition, this work tells the story of a tragic child emperor through his mother's eyes. A moving drama of love, power, and loss that speaks across time.

Tsuyoshi Tomita, Playwright and Director
「波の下の都」作・演出・制作 富田 剛史
関門時間旅行主宰/トミタプロデュース(株)

AKAMA SHRINE

赤間神宮

御祭神 第81代 安徳天皇



赤間神宮には、壇ノ浦の戦いで関門海峡に沈んだ幼帝・安徳天皇が祀られています。平家物語に出てくる龍宮城を模した「水天門」は国の有形文化財にも指定され、名実ともに下関のシンボルです。

Akama Shrine enshrines the tragic child emperor Antoku. Its Suitenmon Gate, inspired by the Dragon Palace beneath the waves, is a symbol of Shimonoseki.

水天門の左には安徳天皇の廟があり、裏山には平家一門のお墓もあります。宝物殿は平家物語の長門本/重要文化財や数々の絵巻、安徳天皇・平家一門の肖像、琵琶など展示、平家物語ファンにはたまらない場所です。

To the left of the gate lies the mausoleum of Emperor Antoku, with Heike graves on the hillside behind. Portraits in the treasure hall mark this place as a sacred site of The Tale of the Heike.



Storyteller CHIKA EHARA

江原千花 えはらちか/語り



1995年、下関市出身。女優・ダンサー・モデル。下関リーディングの会代表。
梅光学院高等学校卒業後、納得できる役を丁寧に演じたいとフリーランスで女優活動を続けている。
東京都調布せんがわ劇場 音楽劇「橋を渡る」主演
中部少年学院70周年記念映像「70年の軌跡」ナレーション
萩市松陰神社にて熊谷美術館主催、中村麻美講演会「伝えたい日本の心」朗読
山梨県立コラニー文化ホール生演奏音楽劇「ヤマガヒ～とうとう～」出演
木暮実千代生誕百年記念市民劇「オトン」木暮実千代役
2019年2月初の自主公演、二人芝居「父と暮せば」(作：井上ひさし)を下関で上演
2020年12月自主公演、岸田國士作「モノロオグ」を無観客で上演 インターネットライブ放送

2011年 第43回ミス日本コンテストにて、2011年度準ミス日本
2011年「父がいなくなった時」で、第2回北九州市子どもノンフィクション文学賞 大賞
2016年 ダイワロイアルホテルズ2016イメージモデル

高木青鳳 たかぎ せいほう/琵琶と謡い

Biwa performer SEIHO TAKAGI

福岡市出身。筑前琵琶おとり座・主宰。日本琵琶楽協会会員。
2005年より、筑前琵琶を故・青山旭子に師事。赤間神宮「耳なし芳まつり」など、神社仏閣での奉納演奏をはじめ、各種ステージ・商業施設での演奏など幅広く活動中。古典曲を大切にしながら「初めての人にも楽しく”伝わる”琵琶”を模索して作詞・作曲も手掛け、これまでの琵琶にはないコミカルな曲調や分かりやすい曲展開に定評がある。
オリジナル作品に『鯛の婿入り』『鶴越の逆落し』『十二支のはなし』『天岩戸』など。

2015年 NHK邦楽オーディション合格。
2017年「琵琶楽コンクール」にて秀位入賞。
2016年～2025年「くまもと全国邦楽コンクール」にて奨励賞を複数回受賞。
2018年 第55回「日本琵琶楽コンクール」にて第1位受賞。文部科学大臣賞、日本放送協会会長賞、日本琵琶楽協会会長賞、辻靖剛賞、鶴田錦史賞、石田琵琶店賞を同時受賞。

